

## 京都市立養正小学校学校ニュース 学校評価 平成27年3月19日

校長 杉森 徳行

TEL791-7184 FAX791-7185

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/yousei-s/>

E-mail:yousei-s@edu.city.kyoto.jp

### 学校教育目標

「一人一人の子どものもつ良さや可能性を最大限に伸ばす養正教育の推進」

### 学校評価の結果について

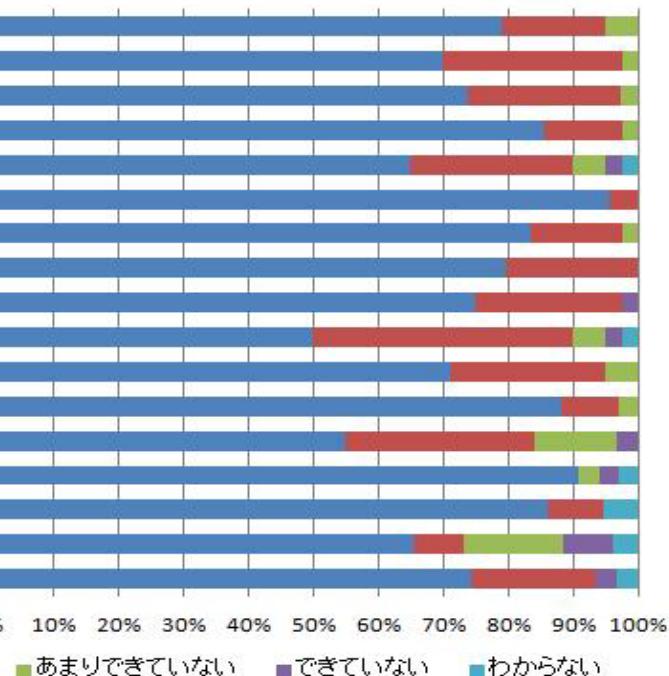
1月に、全校児童（低学年〈1, 2年〉、高学年〈3, 4, 5, 6年〉に分類）、保護者の方に学校評価のアンケートをしていただきました。その結果を、学校運営協議会で話し合い、考察としてまとめましたのでお知らせします。

考察につきましては、この学校ニュースやホームページに示しました後期のアンケート結果を見ていただき、ご意見がございましたら学校にお知らせください。

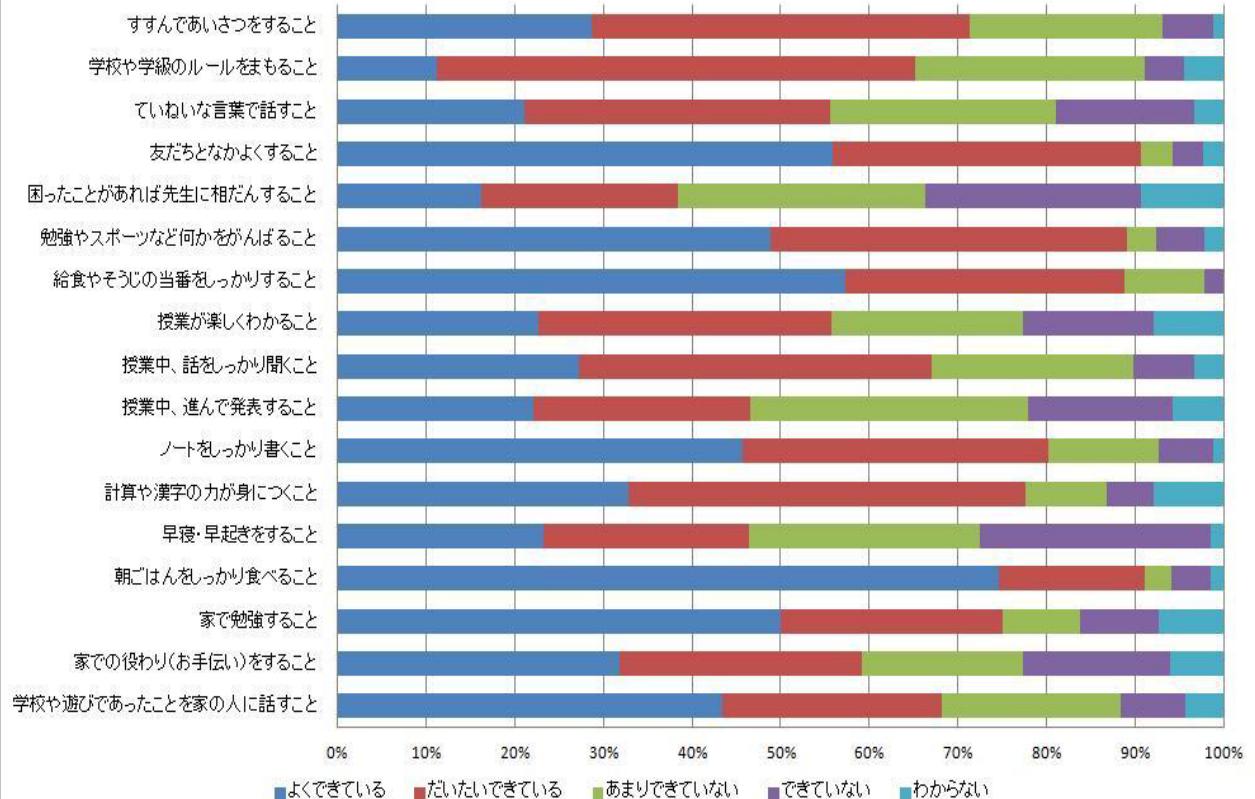
各アンケートの重要度などについては、紙面の都合上、ホームページ上の公開とさせていただきます。低学年の重要度はありません。

### H26 学校評価後期 低学年 実現度

すすんであいさつをすること  
学校や学級のルールをまもること  
ていねいな言葉で話すこと  
友だちとなかよくすること  
こまつたことがあれば先生に相談すること  
勉強やスポーツなど何かをがんばること  
給食やそうじの当番をしっかりすること  
授業が楽しくわかること  
授業中話をしっかり聞くこと  
授業中すんで発表すること  
ノートをしっかり書くこと  
計算や漢字の力が身につくこと  
早寝・早起きすること  
朝ごはんをしっかり食べること  
家で勉強すること  
家のやくわり（お手伝い）をすること  
学校やあそびであったことを家の人に話すこと

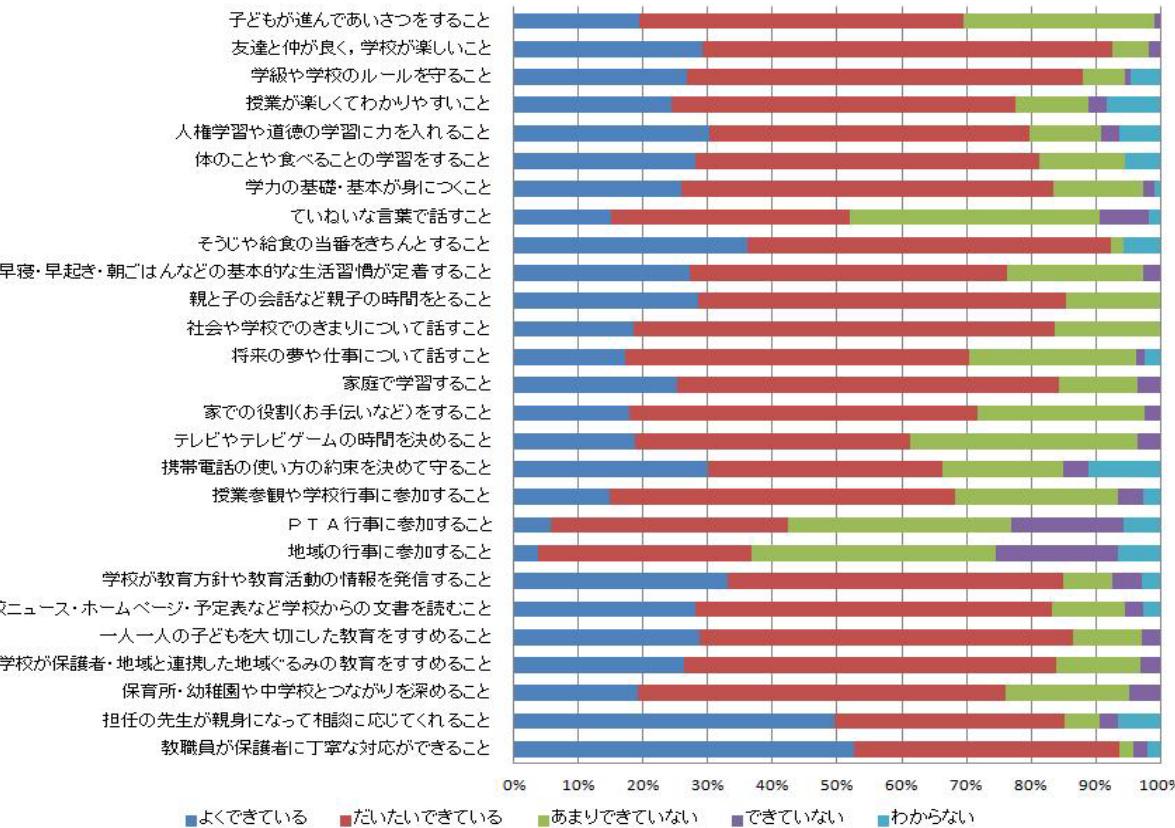


### H26 学校評価後期 高学年 実現度



### H26 学校評価後期 保護者 実現度

子どもが進んであいさつをすること  
友達と仲が良く、学校が楽しいこと  
学級や学校のルールを守ること  
授業が楽しくてわかりやすいこと  
人権学習や道徳の学習に力を入れること  
体のことや食べることの学習をすること  
学力の基礎・基本が身につくこと  
ていねいな言葉で話すこと  
そういう給食の当番をきちんとすること  
早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣が定着すること  
親と子の会話など親子の時間をとること  
社会や学校でのきまりについて話すこと  
将来の夢や仕事について話すこと  
家庭で学習すること  
家の役割（お手伝いなど）をすること  
テレビやテレビゲームの時間を決めること  
携帯電話の使い方の約束を決めて守ること  
授業参観や学校行事に参加すること  
P T A 行事に参加すること  
地域の行事に参加すること  
学校が教育方針や教育活動の情報を発信すること  
学校ニュース・ホームページ・予定表など学校からの文書を読むこと  
一人一人の子どもを大切にした教育をすすめること  
学校が保護者・地域と連携した地域ぐるみの教育をすすめること  
保育所・幼稚園や中学校とつながりを深めること  
担任の先生が親身になって相談に応じてくれること  
教職員が保護者に丁寧な対応ができること



## ～成果～

学習面では、「計算や漢字の力が身につくこと」を重要であると考えている子どもが6%上がり、82.3%、「やや重要である」を合わせると96.2%と高い数値を示しました。また高学年の子どもの実現度でも「よく出来ている」「大体出来ている」を合わせると、77.6%でした。低学年でも、実現度「よく出来ている」と回答した子どもが88.2%と高い数値でした。

正しく計算したり漢字を読んだりすることは、学習の大切な基礎の1つであり、そのことを子どもたちが「重要である」と高く意識をもてていることが、意欲的に学習に取り組む上でも大切なことです。学校でも、ステップアップタイムやベーシックタイムなど学習の基礎を培う取組を大切にしていることが、子どもたちの意識づけにつながったとも考えられます。また、「家で勉強すること」の保護者の重要度が前期と比べて高くなつたことからも、子どもに声をかけていただいている家庭が増えていると考えます。高学年の子どもの実現度でも、他の項目では「よく出来ている」の回答率が下がっているにもかかわらず、家で勉強することの「よく出来ている」の回答率が上がっていることからも、家庭学習が定着している子どもが増えつつあると言えます。今年度も、学校では、自学自習の学習に力を入れてきましたが、自分にとって必要な課題を見つけて、自ら学習に取り組むことが学力向上のために大切であると考えています。自学自習の取組は、今後も継続していきたいと考えています。

生活面では、「友だちと仲よくすること」の重要度「重要である」83.3%、「やや重要である」14.4%と高い率を示しました。特に「重要である」は前期から5.7%上りました。12月の人権学習の時間に各学年「いじめ」をテーマに授業を行いました。その後、各学級で「友だちを大切にするためにできること」を話し合い、決めたことをにこにこ集会で発表するという活動を行いました。そのことが、子どもたちの「友だちと仲よくしたい、大切にしたい」という意識を高めたと考えられます。ただ、実現度「よく出来ている」は、3.7%下がりました。これは、意識が高くなった分、子どもたちの自己評価が厳しくなつたとも考えられますが、今後も授業等を通して子ども同士の関わりが高められるように努力していきたいと考えています。

保護者のアンケートでは、前期と比べて、重要度として次の項目が「重要である」で高い率を示しています。「親と子の会話など親子の時間をとること」「社会や学校でのきまりについて話すこと」「将来の夢や仕事について話すこと」「家庭で学習すること」の4つです。どれも「家庭での子どもの様子について」に属する項目であることから、子どもとの時間を大切にしようとされている家庭が増えていると考えられます。子どもとの時間を共有する時間が増えることで、子どもの様子を知ることになり、子どもを褒めたり叱ったりする機会が増えることにつながります。子どもたちにとって、親から認められることが自尊感情を高める上でも大切です。

子どもの教育は、「家庭は家庭で、学校は学校で」と切り離すのではなく、子どもの成長のために、家庭と学校が協力して情報交換し、周りの大人が、家庭や学校での子どもの活躍を喜ぶことができればよいと考えます。

## ～学校運営協議会理事会より～

3月10日（火）学校運営協議会理事会を行いました。学習面では、授業中にわからないところがある子どもたちが、すぐに質問できる環境や雰囲気をつくることが大切であるという意見が出されました。学校では、子どもたちに、自ら学ぶ力を付けるために指導者がすぐに手を差し伸べるのではなく、まずは、自力で解決していくように指導しています。その上で、学校では、学年担当や学生ボランティアを配置するなどの人的な支援や少人数指導などの指導体制を工夫していることなどを報告しました。その他、新聞紙上で取り上げられているいじめなどが関係した事件について、教職員や保護者が子どもたちを取り巻く状況を把握し、対応していくことが必要だという意見が出されました。

## ～課題～

生活面に関わることで、高学年児童で重要度・実現度ともに下がっているのが「すすんであいさつすること」「学校や学級のルールをまもること」「ていねいな言葉で話すこと」の3つの項目でした。「重要である」「やや重要である」、「よく出来ている」「大体出来ている」のそれぞれの合計では、その割合に大きな変化はありませんが、「重要である」「よく出来ている」の回答率が下がっています。逆に、実現度「あまり出来ていない」の回答率が上がってきます。上にあげた3つの質問は、「学校の様子について」に属する中の「周りの人とのかかわり」に関する項目です。「あまり出来ていない」と回答した子どもの数は人数で表すとわずかです。しかし、集団においては、少数の子どもの行動によって、その集団がプラスにもマイナスにも左右されることがあります。「あまり出来ていない」の回答率がわずかであっても、その原因を考え、すべての子どもたちが進んで集団のためにプラスの行動をとろうとする態度を育てていかなければならぬと考えます。

学習面においては、「授業中、話をしっかりと聞くこと」「授業中、進んで発表すること」「ノートをしっかりと書くこと」といった授業に関する項目がすべて重要度、実現度ともに「重要である」「やや重要である」、「よく出来ている」「大体出来ている」といった回答率が下がっていました。中でも低い回答率であったのが「授業中、進んで発表すること」で実現度「よく出来ている」の回答率は22.1%でした。しかし、重要度は「重要である」61.9%、「やや重要である」28.6%と実現度に比べると、高い回答率でした。このことから、子どもたちは授業中に進んで発言することは「重要なこと」ととらえていますが、実際に自分が思うようには、進んで発表が出来ていないと考えていると言えます。「授業が楽しく分かること」の「よく出来ている」の回答率が22.7%と低いことからも、子どもたちの発言を通して、子どもたちが自ら気付き、わかる授業を工夫していく必要があると言えます。学習面で取り上げた3つの項目の中で「ノートをしっかりと書くこと」は前期よりも下がったとはいえ、実現度が「よく出来ている」45.7%「大体出来ている」34.6%と他の2つの項目と比較すると高い率でした。これは、ノート指導を通して書く力、考える力を伸ばそうとしている取組の成果であると言えます。

今年度、挙げられた課題点を振り返り、来年度、より良い養正小学校となるための取組に生かすことが出来ればと考えています。

## ～自由記述の欄から～

- ・「宿題の量が子どもにあっていない。」という意見をいただきました。教員間でも宿題について話し合い共通理解し、学年に応じて提出する宿題の量を考えられればと思います。
- ・「学習や生活に手助けが必要な子へのサポートの充実をお願いします。」という意見をいただきました。今年度、算数科の学習では、できるだけ二人体制で指導するようにしました。また、少人数体制での授業を組むなどし、多くの子どもたちに丁寧に指導できるようにしています。困りを感じている子どもたちには、多くの教員で手立ての方法を考え、指導に生かしています。しかし、今の指導で十分であるとは考えていません。今後も、限られた教員の中でもより良い指導ができるように、また、必要に応じて関係機関に助言・指導をいただきなどし、子どもへのより良いサポートが出来るように努力したいと考えています。
- ・「ホームページで月ごとの予定を見られるようにしてほしい。」という意見をいただきました。ホームページでは、学校ニュースを見る事が出来るようになっています。「配布文書」をクリックしていただき、その後、見たい月の学校ニュースをご覧ください。また、月ごとの予定も見る事が出来るようになっています。
- ・その他「いつもありがとうございます。」という意見も頂きました。今後もより良い教育が出来るように努力いたします。